

ウェルネオシュガー株式会社

サステナビリティ報告書 2025

Sustainability Report 2025



生存戦略としてのサステナビリティ経営 ～「サステナブル・ビジョン2030」を軸とした ボトムアップによる推進～



ウェルネオシュガー株式会社
代表取締役会長 仲野 真司
(サステナビリティ推進委員長)

砂糖業界におけるリーディングカンパニーとして

当社グループでは、2024年10月の日新製糖と伊藤忠製糖との完全統合にはじまり、2025年10月には第一糖業と合併、さらに、2026年10月には東洋精糖との合併を予定しています。

こうした歴史ある企業群の結合を通じた事業基盤の拡大に伴い、当社グループの社会的責任も自ずと拡大しております。ウェルネオシュガーは、砂糖業界のリーディングカンパニーの一翼を担う存在としての自覚のもと、様々なステークホルダーの皆さまのご期待に応えるべく、持続可能な社会の実現に向けて社会課題と真摯に向き合い、皆さまとともに持続的成長を図ることで、企業価値を高めてまいります。

経営理念とマテリアリティへの取り組み

当社グループは、「糖のチカラと可能性を切り拓き“Well-being”を実現する」というパーパスを掲げ、様々なステークホルダーの皆さまにとっての“Well-being”が実現できている状態をビジョン（目指す姿）として描いています。

そして、この“Well-being”の切り口から、ステークホルダーの皆さまが抱える社会課題の解決と当社グループの持続的成長の関係性を整理し、私たちの事業継続上極めて重要な経営課題として「5つのマテリアリティ」を特定しました。

各マテリアリティのうち、「食と健康の課題解決」は私たちのパーパスそのものであり、「多様な人材の活躍」は人的資本経営の実践、「安全・高品質、安定供給」、「人権尊重」、「自然との共生」は私たちの健全な事業運営における必須課題であり、これら5つのマテリアリティに正対することは、当社グループとしての生き残り戦略そのものと言っても過言ではありません。

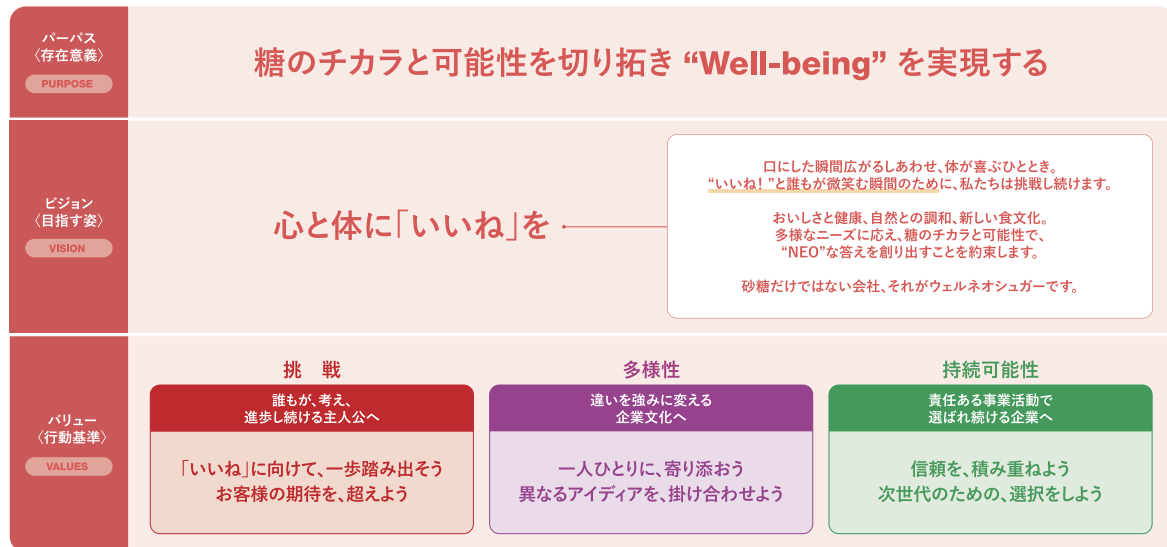
コスト効率と環境負荷、従業員エンゲージメントと生産性など、時に対立する要素を統合し、従業員の内発的動機と企業として追求すべき価値の統合を図る地道な取り組みの中に、私たちが目指すサステナビリティ経営の本質があります。

また、当社グループでは、パーパス・ビジョンの実現に必要な判断・行動の基準として、「挑戦」「多様性」「持続可能性」を私たちのバリューと位置付け、すべての役員・従業員が3つのバリューを常に意識し、それに基づく行動が実践できる状態を目指しています。

当社グループのメンバーの一人ひとりが日々の業務の中で、バリューを体現していくことが、私たちのパーパス・ビジョンを実現する重要なドライバーであると考えています。

パーパス・ビジョン・バリュー

PURPOSE・VISION・VALUES



手挙げメンバーも加わった分科会による全社横断的運営

当社グループのサステナビリティ経営は、執行役員を主要メンバーとするサステナビリティ推進委員会を推進主体としていますが、その実効性を高めるには、委員会と現場の距離感を縮める全社横断的な運営体制の構築が課題でした。そこで、2025年1月、サステナビリティ推進委員会の傘下に、各マテリアリティに対応する5つの分科会を設置し、この分科会を委員会活動の中心に据える体制を導入しました。

各分科会のメンバーは、マテリアリティと関係の深い部署に加えて、活動に関心をもつ従業員が組織や階層の垣根を越えて自由に参画できる「手挙げ制」で募集し、幅広い視点と主体的なエネルギーを採り入れることで、実効性ある施策の提案を促進する仕組みとしました。

各分科会では、率直かつ活発な議論が交わされ、現場視点を活かした施策の具体化も始まっています。

こうした現場を巻き込む活動の推進は、各職場のメンバーがサステナビリティ経営と日々の業務との関係性を意識し、会社をボトムアップで良くしていこうとする当事者意識を育む基盤にもなっています。

サステナブル・ビジョン2030の策定

各分科会の最初のタスクは、5つのマテリアリティに対応する2030年度までの中期目標とアクションプラン（数値目標を含む）の策定でした。

各分科会での集中的な議論を通じて提案された中期目標やアクションプランは、サステナビリティ推進委員会での審議を経て経営会議で承認され、マテリアリティとともに「サステナブル・ビジョン2030」（*P.4～5参照）として、当社グループのサステナビリティ経営の目指す姿（目標）としてまとめ上げられました。

「サステナブル・ビジョン2030」は、当社グループのサステナビリティ経営について役員・従業員の理解と共感を育む設計図であり、その実現に向けて、グループ一丸となってサステナビリティ経営を推進してまいります。

ステークホルダーの皆さまへ

本報告書では、当社グループのサステナビリティ経営における現場に根差した幅広い取り組みの一部をご紹介します。本報告書を通じて、ステークホルダーの皆さまに当社グループのサステナビリティ経営の取り組みへのご理解を深めていただく一助となれば幸いです。

ウェルネオシュガーグループは、今後とも皆さまのご支援を賜りつつ、対話と協働を通じて社会課題を解決しながら持続可能な社会の実現にともに歩んでまいります。

サステナビリティ基本方針

私たちウェルネオシュガーグループは、サステナビリティ経営の推進は、それ自体が企業の持続可能性と経営品質の向上につながるものと考えています。

当社グループは、「糖のチカラと可能性を切り拓き“Well-being”を実現する」というパーパスのもと、5つのマテリアリティ（重要課題）を特定し、それぞれのKGI（Key Goal Indicator）を設定しました。マテリアリティに真摯に取り組むことにより、「公正で透明性の高い経営」「事業を通じたステークホルダーへの貢献」「お客様への満足と安心の提供」といった健全な企業姿勢を貫くことができると考えています。

2024年10月の完全統合を契機に、新生ウェルネオシュガーグループとしての決意を新たに、マテリアリティに基づく具体的な行動目標として「サステナブル・ビジョン2030」を策定しました。サステナビリティ経営に対するグループのメンバーの理解と共感を育み、グループ一丸となってサステナビリティ活動を推進することで、社会課題を解決しながら、社会的価値と経済的価値を両立する事業を展開し、企業価値の向上を目指してまいります。

サステナビリティ推進体制

当社は、代表取締役を委員長、執行役員を主要メンバーとする委員で構成する「サステナビリティ推進委員会」を設置し、解決すべき社会課題（ESG関連事項等）の解決に向けて、全社的に取り組む体制を構築しています。当委員会は経営会議の諮問機関として位置付けられており、サステナビリティ推進にかかる取組状況を適宜、経営会議に報告するほか、重要事項について経営会議に答申します。当該重要事項は、経営会議において審議・決定されますが、取締役会に上程すべき経営上の重要な事項については、経営会議で審議・検討の上、取締役会に付議され、取締役会において審議・決定されます。

サステナビリティ推進委員会に求められる役割は、当社の事業活動を通じて、持続可能な社会の実現および企業価値の向上を図ることであり、当委員会は、サステナビリティ推進に関する全社方針、中長期目標、重要施策等の審議・検討、および各分科会の活動状況、各種施策の進捗についてモニタリングを行います。

なお、これらの取り組みの実効性を高めるため、サステナビリティ推進委員会の傘下に、各マテリアリティに対応する5つの分科会を設置し、各分野の担当組織のメンバーおよび社内公募メンバーが幅広く参画して、全社横断的な活動を展開しています。

また、当委員会と「コンプライアンス委員会」、「リスク管理委員会」を有機的に連動させることでガバナンス体制を強化し、社会からの信頼に応えられるよう務めてまいります。

マテリアリティの特定および考え方

ステップ① 各種課題の抽出・分類

ウェルネオシュガーグループと社会にとっての課題を抽出。社会課題に対する情報収集、各部へのヒアリング、パーパス・事業戦略等を踏まえた課題抽出を実施し、テーマ別に分類。

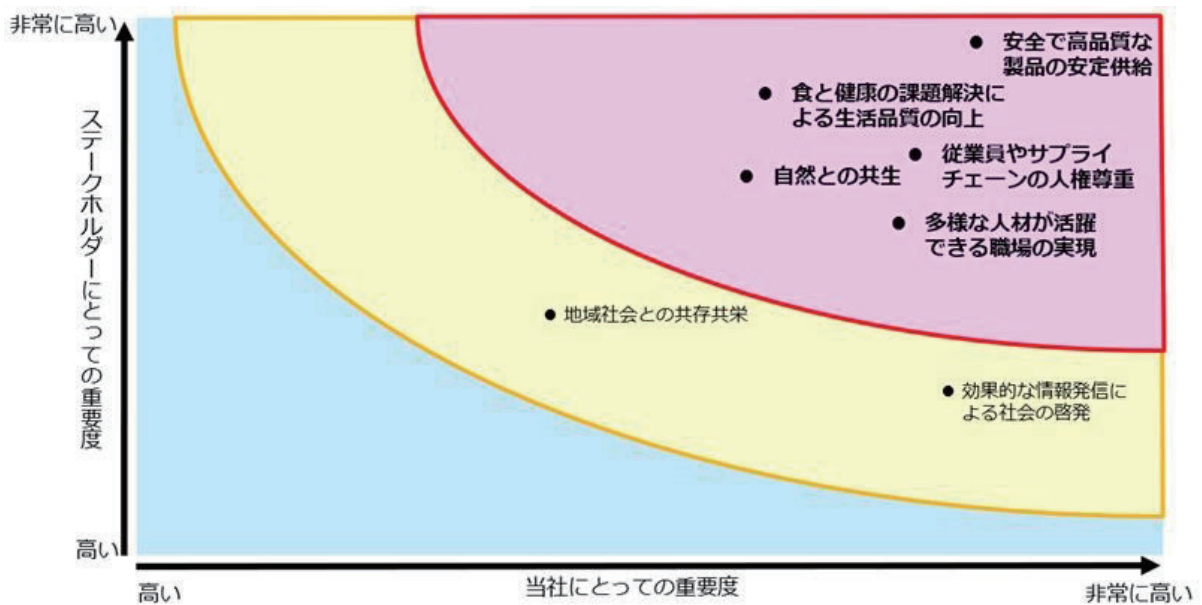
ステップ② 重要度分析・妥当性確認

当社の経営理念や財務情報を紐付け、当社にとっての重要度を分析。
また、社外有識者へのヒアリングを通じてステークホルダーにとっての重要度を分析。
それぞれの重要度について、当社経営陣・社外有識者によって妥当性を確認。

ステップ③ マッピングおよびマテリアリティの特定

ステップ②の分析を元に以下マッピングを行い、マテリアリティを特定。特定したマテリアリティは、サステナビリティ推進委員会および経営会議による審議のうえ、取締役会による承認を受けた。

＜ステークホルダーおよび自社の視点から優先度検討＞



サステナブル・ビジョン 2030

ウェルネオシュガーグループ サステナブル・ビジョン 2030

SUSTAINABLE VISION 2030

食と健康の課題解決による生活品質の向上

砂糖のおいしさと健康的な生活の調和がとれたソリューションの提案と実現

安全で高品質な製品の安定供給

食中毒等の重要な健康危害発生ゼロ継続

多様な人材が活躍できる職場の実現

女性管理職比率25%
新規採用者の入社後3年間の定着率100%

未来へつなぐ自然との共生

2030年度
CO2排出量46%削減*
2050年度
カーボンニュートラル達成

従業員やサプライチェーンの人権尊重

人権デューデリジェンスの実施

ガバナンス体制の強化/コンプライアンスの徹底

パーパス〈存在意義〉

PURPOSE

糖のチカラと可能性を切り拓き
“Well-being”を実現する

ビジョン〈目指す姿〉

VISION

Corporate Message
心と体に「いいね」を

バリュー〈行動基準〉

VALUES

挑戦・多様性・持続可能性

*Scope1,2、対象範囲：ウェルネオシュガー一社、第一糖業社、2013年度比

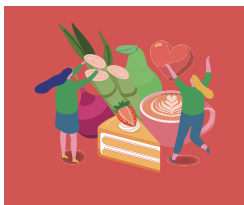
(つづく)

サステナブル・ビジョン 2030

5つのマテリアリティ

5 MATERIALITIES

 <p>食と健康の 課題解決による 生活品質の向上</p>	<p>KGI おいさと健康の両立に役立つ製品・サービスの提供によって 消費者の“Well-being”に貢献</p> <p>中期目標 (2030年度)</p> <ul style="list-style-type: none">• おいさと健康に貢献する食品への採用• 健康寿命延伸に資する共同研究の推進、特許出願• 砂糖に関する正しい情報を楽しく伝え、理解を促進する活動• セミナーや展示会等で、食を通じた健康への取り組みを紹介
 <p>多様な人材が 活躍できる 職場の実現</p>	<p>KGI 職場環境の整備やエンゲージメント向上施策を通じて 従業員の“Well-being”を実現</p> <p>中期目標 (2030年度)</p> <ul style="list-style-type: none">• 挑戦実践度100%• 新規採用者の入社後3年間の定着率100%• 女性管理職比率25%以上• 男女賃金格差の是正• 育児・介護休業取得満足率100%• 有給休暇取得満足率100%• 健康経営優良法人「ホワイト500」の認定取得• 働きがい・働きやすさスコア4.0点以上(5点満点)
 <p>安全で 高品質な 製品の安定供給</p>	<p>KGI 安全で高品質な製品の安定供給によって お客様の“Well-being”を実現</p> <p>中期目標 (2030年度)</p> <ul style="list-style-type: none">• 食中毒等の重篤な健康危害発生ゼロ継続• 品質管理体制向上のための継続した人材教育(FSSC22000内部監査員資格取得)• お客様満足度調査の実施と調査結果の公表(一般消費者でご指摘をいただいた方を対象)
 <p>従業員や サプライチェーンの 人権尊重</p>	<p>KGI ステークホルダーとの対話を通じて サプライチェーン全体の“Well-being”を実現</p> <p>中期目標 (2030年度)</p> <ul style="list-style-type: none">• サプライチェーンの“Well-being”を守るための人権デューデリジェンスの実施• サステナブル調達アンケート回収率90%以上(一次サプライヤーを対象、隔年実施)• 国内原料糖メーカーやサトウキビ・てん菜生産者との相互理解の活動(2回/年)
 <p>未来へつながる 自然との共生</p>	<p>KGI 気候変動対策・資源の有効利用を通じて 自然環境の“Well-being”に貢献</p> <p>中期目標 (2030年度)</p> <ul style="list-style-type: none">• 2050年度 カーボンニュートラル達成• 2030年度 Scope1・2におけるCO2排出量46%削減 (対象範囲: ウェルネオシュガー(株)、2013年度比)• プラスチック使用量50%削減 (対象範囲: ウェルネオシュガー(株)、2013年度比)• 廃棄物量の削減とリサイクル率98%以上の水準維持• 物流における環境負荷を考慮した最適化の検討・実行• 水資源使用量(生産量比)低減に向けた調査



食と健康の課題解決による生活品質の向上

おいしさと健康の両立に役立つ製品・サービスの提供によって消費者の“Well-being”に貢献



当社ではマーケットインの視点を大切に、生活必需品である砂糖の安定供給という使命を果たすとともに、お客様のもとへおいしさと健康の両立に役立つ製品・サービスを提供することでステークホルダーの“Well-being”に貢献していきます。

Sugar

砂糖は紀元前からの長い歴史を持ち、人々の食と健康を支える必需品として親しまれてきました。時代が変わり、消費者のライフスタイルが多様化しても、食事においしさと喜びを与え、体内でエネルギー源として使われる砂糖は心身の健康に大きく寄与しています。

当社では「カップ印」「クルルマーク」「セブン印」ブランド、グループ会社の東洋精糖では「みつ花印」ブランド等の砂糖の製造・販売を行っています。多彩な商品ラインナップが特徴で、家庭用・業務用とも豊富なアイテムを取り揃えています。また、当社グループの生産拠点は、それぞれ関東、中部、関西、九州に位置し、日本各地にバランスよく配置された拠点で生産を行っています。



Food & Wellness

当社では腸内・口腔フローラ（腸内・口腔内に生息する多種多様な細菌の集まり）の環境を整えることが心身の健康に寄与することに注目し、フローラを制御・デザインする様々な素材を展開しています。「カップオリゴ」（ガラクトオリゴ糖）については、2025年4月より美浜バイオプラントの稼働を開始し、生産能力を強化することで、旺盛なニーズに応えられる体制を整えています。また、「サイクロデキストラン (CI)」は、プラーク形成抑制効果を持ち、オーラルケアができるユニークな環状オリゴ糖です。2025年度中に本生産を開始し、増産に向けた生産体制を強化します。引き続き、認知度向上に向けた施策を実施する予定で、今後は更なる付加価値の創出に向けた研究開発にも注力していきます。

2030年度目標：おいしさと健康に貢献する食品への採用

オリゴ糖生産設備増強

当社独自開発の「カップオリゴ」（ガラクトオリゴ糖）は、お客様から一定の評価と需要は得ていたものの、協力会社での委託生産であったため、すべてのご要望にお応えできない課題がありました。この課題を解消するため、2025年3月、当社として初のガラクトオリゴ糖生産設備となる美浜バイオプラント（千葉市美浜区）が竣工、生産を開始しました。

また、販売量拡大が続く国産さとうきびを原料とする「沖縄・奄美のきびオリゴ」（フラクトオリゴ糖）も、需要に応えるため九州工場の製造設備を増強しました。

これらの設備投資により、自社製品の拡販だけでなく、他社製品原料として各種オリゴ糖の採用拡大に向け積極的に働きかけを行い、ニーズに応えられる体制を整備しました。

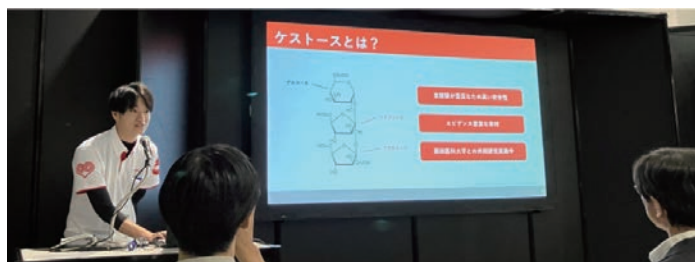


美浜バイオプラント竣工

2030年度目標：セミナーや展示会等で、食を通じた健康への取り組みを紹介

機能性糖質の啓発

各種展示会に出展し、セミナー等を通じてサイクロデキストランやケストースをはじめとする機能性の食品成分による健康増進への取り組みを紹介しました。



2024年4月	健康原料・OEM展	オーラルケアができる環状オリゴ糖CI
2024年5月	ifia JAPAN 2024	オリゴ糖でオーラルケア！CI(サイクロデキストラン)
2024年10月	BioJapan 2024	
2024年10月	食品開発展 2024	お口ではたらき歯垢を防ぐオリゴ糖"CI" 腸活素材としてのケストースの可能性
2025年2月	健康博覧会	歯垢を防ぐ"CI"で実現する新たなオーラルケア
2025年3月	メディカルジャパン	

「沖縄・奄美のきびオリゴ」腸活レシピ

ウェルネオシュガーの誕生を機に、よりおいしさが伝わるデザインへとリニューアルした「沖縄・奄美のきびオリゴ」は、リニューアルの過程で行った市場調査において、オリゴ糖の名称の認知度は高い反面、具体的な機能や、日常での利用方法の理解が浸透していないことが課題として浮かび上がりました。

お客様の目に留まり、手に取ってもらうためのパッケージリニューアルを行うと同時に、効果を実感し、使い続けていただくための施策も必要と考え、今回のリニューアルを機に、機能やレシピなどの情報提供と体験機会の充実を図ることとしました。素材そのものがもつ栄養と機能にオリゴ糖を付加することで「いつもの料理で手軽に美味しく健康にも良い」をコンセプトに定め、管理栄養士監修のレシピ冊子を2種類作成し、イベントやキャンペーンで配布するほか、特設サイトやホームページでも紹介しています。また2024年12月には、有名レストランとのタイアップにより、オリジナルレシピの開発と提供を行い、おいしい腸活料理をお客様に体験していただきました。



2030年度目標：砂糖に関する正しい情報を楽しく伝え、理解を促進する活動

小学校での食育授業

当社では、砂糖を正しく理解し、上手に使っていただくためには、親子、特にお子様に砂糖に関する情報を伝えていくことが大切であると考えています。2021年より手探りではじめた小学校での食育授業は、生産拠点の一つが立地する千葉市の小学生を対象に、毎年1回のペースで実施し続け、少しずつ経験を積み、内容をブラッシュアップさせてきました。直近では千葉市稲毛区の弥生小学校5年生を対象に実施しています。



今後は、ウェルネオシュガー発足に伴いサステナビリティ推進委員会が組織されたことを機に、実施場所を他の生産・営業拠点などにも広げるとともに、関与する社員を増やしていくことを、次の目標として定めています。

食育イベント参加

2024年7月、当社も会員である和食文化国民会議が主催する夏休み食育イベント「子ども和食セッション」に砂糖のテーマで初となるブースを出展しました。「お砂糖の調理での役割」を美味しく楽しく伝えるため、砂糖の温度による変化を見るべっこう飴づくり、多種多様な砂糖の味と使い方を体感する砂糖の食べ比べ、砂糖の分量の違いによる膨らみや焼き色の変化を見て触れるスポンジケーキの展示などを行いました。当社としては様々なジャンルが一同に集まる食育イベントへの出展は初めてでしたが、84組・172名の親子との交流を通じ、今後に向けた貴重な経験を得られることができました。

そして2回目となる2025年8月は、サステナビリティ推進委員会メンバーが主体となり、119組・248名の親子をお迎えしました。今後も本活動への協力を通じ、お客様に砂糖の正しい情報を楽しく伝えるとともに、多くの社員にもお客様と直に接する経験の機会を広めていきたいと考えています。

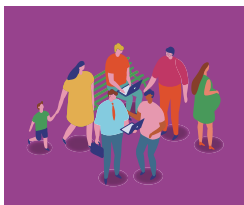


2030年度目標：健康寿命延伸に資する共同研究の推進、特許出願

腸内・口腔フローラの改善などに関わる産学連携の共同研究を推進し、その研究成果等を活用して出願しています。

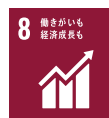
2024年度実績：特許公開8件、論文公開3報

特願2023-134396	魚類の感染症予防治療剤
特願2024-043788	う蝕抑制組成物、並びにこれを用いた甘味組成物、食品、サプリメント、歯磨剤組成物、及び洗口液組成物
特願2024-192554	<i>Porphyromonas gulae</i> 由来サイトカイン産生抑制組成物、犬又は猫用のオーラルケア組成物、歯周病予防剤、口腔内バイオフィーム形成阻害剤、抗炎症剤及び口臭抑制剤
特願2023-104794	抗アレルギー剤
特願2023-099129	ビフィズス菌増殖促進剤、ならびにこれを含む食品および医薬品
特願2023-082426	ビフィズス菌増殖促進剤、ならびにこれを含む食品および医薬品
特願2024-027788	<i>Porphyromonas gulae</i> 由来サイトカイン産生抑制組成物、犬又は猫用のオーラルケア組成物、歯周病予防剤、口腔内バイオフィーム形成阻害剤、抗炎症剤及び口臭抑制剤
特願2023-078012	外傷性皮膚疾患抑制剤、皮膚コラーゲン産生促進剤、皮膚有害菌増殖抑制剤、および、これらを含む医薬品、化粧品、食品



多様な人材が活躍できる職場の実現

職場環境の整備やエンゲージメント向上施策を通じて従業員の“Well-being”を実現



ウェルネオシュガーグループでは、従業員の多様性を尊重し、一人ひとりが持つ能力を最大限に発揮することが、当社グループの持続的な成長につながると考えています。また、従業員が健やかに働き、高い生産性を発揮できるよう、安全かつ働きやすい職場環境を整えることを重視しています。多様な人材が活躍できるよう、様々な制度や研修を整備し、従業員の成長を支援しています。

エンゲージメントの向上

従業員の“Well-being”を実現するためには、パーパス・ビジョン・バリューに共感しながら前向きに働ける環境で、自己実現や自己の成長を実感することにより、働きがいを得られる会社であり続ける必要があります。当社では、多様性や組織風土を評価する指標として、女性管理職比率、男性の育児休業取得率、男女間の賃金差異に加えて、新規学卒採用者やキャリア採用者の定着率（離職率）およびエンゲージメントスコアをモニタリングしながら、人事制度の改革や運用見直しに努めています。

パーパス・ビジョン・バリュー浸透活動の促進

2024年12月に、ビジョンの策定およびバリューの更新を行い、ウェルネオシュガーグループの経営理念が刷新したことを皮切りに、パーパス・ビジョン・バリュー（PVV）の浸透活動を開始しました。12月には、全拠点の部課長が集まり、キックオフワークショップを開催し、各職場での推進役としてPVVの理解を深めました。2025年1月からは3か月にわたり、各職場で「ネオトーク」（職場対話会）を実施し、ビジョンを実現するために必要な「自職場のありたい姿」と、それを実現するために取り組む行動プランを決め、職場毎にポスターを作成しました。現在は、各職場で決めた行動を増やすため、定期的に振り返りを行っている職場の事例や、バリューの「挑戦」につながるエピソードを社内報で紹介する等、浸透活動に取り組んでいます。



「ネオトーク」（職場対話会）にて作成した職場ポスター

2024年12月 キックオフワークショップの様子

2030年度中期目標：挑戦実践度100%

手挙げ制度の導入

バリューの「挑戦」を促す仕組みの一つとして、2025年1月から、マテリアリティと紐づける形で5つの分科会を立ち上げ、定期的に活動しています。この分科会のメンバーは手挙げにより募集し、サステナビリティの取り組みに挑戦したい40名が参画しています。手挙げメンバーは、5つの分科会から関心のある分科会に参画し、関連部署からの選任メンバーと協働しながら、活発な意見交換を通じて、「サステナブル・ビジョン2030」の実現に向けて活動を推進しています。

新人事制度の導入

当社では、従業員の多様性を尊重し、一人ひとりが持つ能力を最大限に発揮し、経営・事業に貢献できる「自立したプロフェッショナル人材」を育成する制度として、2024年10月から新人事制度を導入しています。新人事制度は、これまでの役職者に偏重したキャリアモデルから脱却し、組織内の協業を重視しつつも「自立した個（プロフェッショナル）への尊厳を回帰させる制度」としています。従って、当社では、すべての従業員が、自身のもつ特性やキャリアを活かしながら、自立したプロフェッショナルとして成長できるよう支援し、こうしたプロフェッショナル人材の中から、マネジメントに適性のある者を組織長として配置・登用していく方針です。

また、自らの枠を超えて挑戦する従業員の増加に向け、社内公募制を導入しています。

2030年度中期目標：新規採用者の入社後3年間の定着率100%、女性管理職比率25%以上

多様性の確保

ウェルネオシュガーグループの持続的な成長のためには、従来の知見や慣習にとらわれない多様な価値観や考えを持つ人材が、オープンな職場環境下で、年齢・性別等を問わず自由闊達に様々なアイデア、意見を交わし、すべての従業員が持てる力を余すことなく発揮できることが重要と考えています。そのために、人員構成比率の低い女性やキャリア採用者等の積極的な採用や、管理職登用を増やし、中核人材の多様性の確保に努めています。また、DE&I（多様性、公平性、包摂性）を推進し、心理的安全性と相互信頼が高く、挑戦を支援する文化の浸透を図っていきます。従業員の自律的なキャリア形成を支援することで、パフォーマンスを持続的に発揮し続ける働き方を推進し、全従業員が活躍できる「選ばれる企業」を目指しています。

2030年度中期目標：健康経営優良法人「ホワイト500」の認定取得

健康づくりの推進

ウェルネオシュガーグループは、従業員とその家族の健康が、企業の持続的な成長の重要な基盤であるとの考えに基づき、「健康宣言」と「基本方針」を制定しています。また、「多様な人材が活躍できる職場の実現」には、健康経営の取り組み・推進が不可欠であり、積極的に対策を講じて取り組んでいます。

健康宣言

ウェルネオシュガーグループは、事業を通じたステークホルダーへの貢献と持続的な企業価値の向上には従業員とその家族が心身ともに健康であることが大切だと考え、一人ひとりの“Well-being”を実現するための健康維持・増進を支援していきます。

●基本方針

- ①ウェルネオシュガーグループは、従業員とその家族の心身の健康維持・増進に関する自律的な取り組みを支援します。
- ②ウェルネオシュガーグループは、従業員が楽しくいきいきと働ける職場環境づくりを推進します。

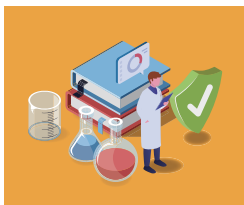
健康宣言：https://www.wellneo-sugar.co.jp/sustainability/health_declaration/

健康管理・予防に関する取り組み

健康指導の実施	グループ会社の日新ウエルネスと連携し、全従業員を対象に、健康・栄養・運動の指導を実施
胃がんリスク検査の実施	全従業員を対象にABC検査を実施し、結果により1～5年毎に胃カメラ検査を実施
脳ドックの実施	40歳以上の従業員を対象に、5年おきに脳ドックを実施
歯科検診	全従業員を対象に、歯科検診を実施
インフルエンザ予防接種補助	全従業員を対象とした、予防接種時の費用補助（2025年度より扶養家族も原則自己負担なし）

その他の取り組み

健康推進関連情報の共有、健康教育の実施、就業時間内禁煙、健康相談窓口の設置



安全で高品質な製品の安定供給

安全で高品質な製品の安定供給によって
お客様の“Well-being”を実現



ウェルネオシュガーグループで製造する砂糖は、国内外から調達した原料糖を原材料として使用しています。産地により色などの性状が異なる原料糖から常に同じ品質の砂糖を製造するために、工場徹底したプロセス管理を行うとともに、全社的な品質管理体制を整え、お客様に対し生活必需品である安全な砂糖を安定的に供給することで、社会的責任を果たしてまいります。

品質方針

ウェルネオシュガーグループは、「安全」な製品とサービスの提供を通じて、「安心」をお客様にお届けすることで、お客様の満足と信頼を積み重ね、持続可能な社会の実現に貢献します。

品質方針：https://www.wellneo-sugar.co.jp/sustainability/quality_policy/

2030年度中期目標：食中毒等の重篤な健康危害発生ゼロ継続

当社における品質への取り組みは、会社創設以来一貫して食品製造業の根幹として継続してきました。近年は、サステナビリティ経営の推進においても品質は重要な戦略課題と位置付けられ、その実現に向けて「安全・安心分科会」を設置し、全社的な活動へと発展させています。

さらに新たな中期目標として「食中毒等の重篤な健康危害発生ゼロ継続」を最優先課題に掲げました。これは品質保証部門のみならず、全従業員が共有する決意であり、今後も一丸となって安全・安心な製品の提供に取り組んでいきます。

食品安全・品質認証の取得について

ウェルネオシュガーグループでは、国際規格のFSSC22000（食品安全マネジメント）やISO9001（品質マネジメント）の認証を取得し、品質管理の徹底、継続的改善への取り組みにより、安全な製品・サービスの提供に努めています。

中部工場 ISO9001（品質マネジメント） 登録日：2002年8月23日
FSSC22000（食品安全マネジメント） 登録日：2012年4月19日

関西工場 FSSC22000（食品安全マネジメント） 登録日：2016年3月11日

九州工場 FSSC22000（食品安全マネジメント） 登録日：2021年4月9日

品質に関する情報交換会議の開催

当社では、品質向上に向けた取り組みの一環として、各工場の品質担当者が参加する「品質保証会議」を毎月開催しており、品質管理に関する改善活動や事例、ノウハウを相互に共有する場となっています。

これにより、工場間での知見の水平展開を促進するとともに、安全に対する意識の向上や技術力の強化につながっています。



品質監査（自社、委託先）の実施

当社では、自社の内部監査に加え、生産委託先に対する品質監査を定期的の実施しています。監査で得られた知見は集約・分析したうえでグループ全体に共有し、改善活動へと反映しています。

これにより、品質管理レベルの継続的な向上を図るとともに、「安全」を追求し、お客様に「安心」をお届けする活動を全社的に推進しています。

フードディフェンスの強化

以下の食品安全管理体制の整備を各工場で実施し、フードディフェンスの強化を行っています。

- 敷地境界および工場構内への防犯カメラ・防犯センサー設置による24時間監視体制
- 常駐警備による入退場管理、不審者等への警戒、敷地内の監視・巡回
- 原料糖の搬入から最終製品までを自動制御する、人手を介さない中央制御システム

2030年度中期目標：品質管理体制向上のための継続した人材教育

当社では、品質管理体制の高度化には従業員一人ひとりの意識と知識の向上が不可欠であると考え、継続的な人材教育に取り組んでいます。

その一環として、FSSC22000内部監査員養成講習の受講対象を、品質管理業務に直接携わる従業員にとどまらず、関連部門の従業員にも広げています。これにより、より多くの従業員が食品安全に関する基礎知識を習得し、組織全体として品質と安全に対する意識を高めることにつなげています。

FSSC22000内部監査員養成講習 新規受講者数

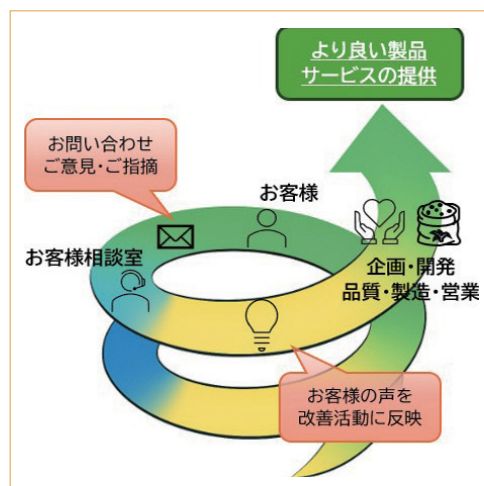
2022年度：20名 / 2023年度：11名 / 2024年度：12名

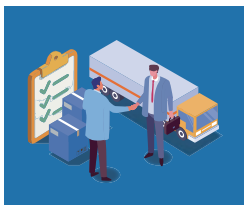


2030年度中期目標：お客様満足度調査の実施と調査結果の公表

お客様からの商品に関する様々な声を真摯にお聴かせいただく場として、当社ではお客様相談室を設けています。お客様相談室では、関係部門と連携して商品に関する知識の情報収集・整理を行うほか、接遇についても日々研鑽に努め、一人ひとりのお客様にご満足いただけるよう、「適時に」、「誠実に」、「丁寧に」、を基本にお客様の声への対応を行っています。また、いただいた声はセキュリティシステムを備えた自社のシステムに全て入力し、関連部門と共有・連携することにより商品の品質向上に役立てるとともに、商品に関してご指摘をいただいたお客様へは、報告時に私どもの対応についての満足度を伺うアンケートを実施し、お客様相談窓口の対応品質の向上にも努めています。

当社では、2022年度よりお客様相談室において、お客様満足度調査を実施しています。ご指摘をいただいたお客様に対し書面によるアンケートをお願いし、その結果、過去3年間に於いて95%以上のお客様から「満足のいく対応であった」との評価をいただいています。お客様からの声は、当社にとって学びと改善の契機であり、企業活動の質を高める上で欠かせないものです。今後も一つひとつの声に誠実に耳を傾け、改善に活かすとともに、お客様満足度の更なる向上に取り組んでいきます。





従業員やサプライチェーンの人権尊重

ステークホルダーとの対話を通じて
サプライチェーン全体の“Well-being”を実現



企業には、従業員／社員や取引先、お客様や地域社会をはじめ自社の事業活動に関わるすべての方々の人権を尊重する倫理的責任があります。これには、児童労働や強制労働の排除、安全で健康的な労働環境の維持管理が含まれます。企業はサプライチェーン全体で人権を尊重する取り組みを行うことが重要です。ウェルネオシュガーグループは、人権を尊重し、企業としての信頼を高め持続可能な発展を促進することにより、サプライチェーン全体で相互理解を深めていきたいと考えています。

原料糖の調達

当社の砂糖製品は主に粗糖と呼ばれる原料糖から作られます。

オーストラリアやタイなど海外から輸入する原料糖と、鹿児島県や沖縄県のサトウキビ、北海道のてん菜（ビート）から作られる国内の原料糖を使用しています。

海外原料糖は、総合商社を通じて輸入しています。サトウキビの生産は環境への負荷が小さく、収穫作業においては機械化が進み環境問題や労働問題に対する懸念は低くなっています。当社は原料糖調達先の輸入商社を通じて必要な情報を収集しながらリスク分析を行い、バイヤーとしての社会的責任を果たしています。



2030年度目標：サステナブル調達アンケート回収率 90%以上（一次サプライヤーを対象、隔年実施）

当社は、原料糖や包装材料等の購買・調達において社会的責任を果たすべく「調達方針」を定め、人権や環境にも配慮したサプライチェーンマネジメントを展開しています。上流のサプライヤーである取引先には「調達ガイドライン」を提示し、下流バイヤーも含めたバリューチェーン全体の最適化も視野に、サプライヤーの理解と協力を得るとともに、アンケート調査を実施しながら持続可能な調達を推進していきます。

調達方針

ウェルネオシュガーグループは、すべての調達取引において、関連法令を遵守し、環境や社会への影響に配慮した、公正公平な取引を行います。

さらに、当社グループは、社会的責任や企業倫理の重要性を認識した事業活動について、サプライヤーの皆さまにもご理解いただき、ともに発展していくことを目指しています。

調達方針：https://www.wellneo-sugar.co.jp/sustainability/csr_procurement/

2030年度目標：サプライチェーンの“Well-being”を守るための人権デューデリジェンスの実施

当社は、国連人権指導原則の一つである「人権を尊重する企業の責任」を果たすべく、「人権方針」を定め、人権尊重に関する当社の考え方や行動原則を明確にしています。人権デューデリジェンスの仕組みを通じて、事業活動が人権に及ぼす負の影響を特定し、その防止と軽減に取り組むことによりサプライチェーンの“Well-being”を守っていきます。

2030年度目標：国内原料糖メーカーやサトウキビ・てん菜生産者との相互理解の活動（2回/年）

生活必需品である砂糖を安定供給するためには、沖縄・鹿児島のサトウキビを原料とする製糖事業および国産糖（甜菜糖・甘蔗糖）の生産者の皆さまとの相互理解が重要と考えています。

当社の事業は各地の農産物に支えられており、地域から信頼される企業を目指して活動していきます。



Sedex (Supplier Ethical Data Exchange)

当社の中部工場、関西工場および九州工場は、SedexにB会員として加入しバイヤー会員の要請に応じて情報共有するとともに、Sedexのツールやサービスの利用を通じて責任ある倫理的なビジネスの実践を推進しています。

Sedex について

Sedexは、グローバルサプライチェーンにおける倫理的で責任ある事業慣行の実現を目指し、サプライチェーンデータを管理・共有する世界最大のプラットフォームを持つ会員制組織（非営利団体）です。



未来へつながる自然との共生

気候変動対策・資源の有効利用を通じて
自然環境の“Well-being”に貢献



砂糖の製造においては、大量のエネルギーを必要とするため、省エネルギーや高効率の設備の導入は重要な課題です。また、海外および国内からの原料糖の輸送や製品の輸送については、環境に対する負荷を低減するため、効率のよい物流の実現が求められます。ウェルネオシュガーグループは自然の恵みの恩恵を受ける一方で、事業活動が自然環境に与える影響を常に自覚しながら自然と共生していくことが重要であると認識しています。

環境方針

ウェルネオシュガーグループは、事業を展開するうえで、サトウキビやてん菜といった大地の恵みや水資源をはじめ、様々な自然資本に支えられています。そこで、私たちは、地球環境に関する問題を経営上の最重要課題の一つとして認識し、自然環境の保全や生物多様性の維持に対して誠実に向き合い、社内外のステークホルダーと連携してバリューチェーン全体で環境問題に対応し、持続可能な社会の実現に向けて取り組んでいきます。

環境方針：https://www.wellneo-sugar.co.jp/sustainability/environmental_policy/

2030年度中期目標：Scope1,2におけるCO2排出量46%削減

2050年度目標：カーボンニュートラル達成

温室効果ガス排出量の測定

当社では、気候変動問題に対し、温室効果ガス排出量削減による環境負荷の低減が重要な責任であると認識し、2023年度より温室効果ガス排出量測定を開始しました。事業活動に伴い排出される温室効果ガス排出量を把握することで課題を明確化し、対策を立案・実行することで、ESG投資等への要請にも積極的に対応していきます。

Scope/カテゴリ			2025年3月期	割合[%] ロケーション	割合[%] マーケット	前年度比 [%]	2024年3月期	割合[%] ロケーション	割合[%] マーケット
			CO2排出量 [t-CO2eq]				CO2排出量 [t-CO2eq]		
Scope1			13,068.1	2.6%	2.6%	108.1%	12,090.0	2.1%	2.1%
Scope2 (ロケーション基準)			40,517.3	8.2%	—	100.5%	40,334.4	7.0%	—
Scope2 (マーケット基準)			40,485.7	—	8.2%	107.9%	37,533.0	—	6.5%
Scope3			439,770.5	89.1%	89.1%	83.7%	525,311.0	90.9%	91.4%
上流	カテゴリ1	購入した製品・サービス	369,586.7	84.0%	84.0%	92.7%	398,626.3	75.9%	75.9%
	カテゴリ2	資本財	9,593.5	2.2%	2.2%	344.7%	2,783.1	0.5%	0.5%
	カテゴリ3	Scope1,2に含まれない燃料 及びエネルギー関連活動	20,362.1	4.6%	4.6%	102.3%	19,906.1	3.8%	3.8%
	カテゴリ4	輸送、配送 (上流)	30,352.6	6.9%	6.9%	31.3%	96,996.6	18.5%	18.5%
	カテゴリ5	事業から出る廃棄物	1,460.7	0.3%	0.3%	110.5%	1,321.7	0.3%	0.3%
	カテゴリ6	出張	49.2	0.0%	0.0%	104.1%	47.2	0.0%	0.0%
	カテゴリ7	雇用者の通勤	267.0	0.1%	0.1%	100.1%	266.7	0.1%	0.1%
	カテゴリ8	リース資産 (上流)	54.4	0.0%	0.0%	65.6%	82.9	0.0%	0.0%
下流	カテゴリ9	輸送、配送 (下流)	7,240.0	1.6%	1.6%	169.4%	4,272.7	0.8%	0.8%
	カテゴリ10	販売した製品の加工	0.0	0.0%	0.0%	—	算定対象外	—	—
	カテゴリ11	販売した製品の使用	0.0	0.0%	0.0%	—	算定対象外	—	—
	カテゴリ12	販売した製品の廃棄	804.3	0.2%	0.2%	79.8%	1,007.7	0.2%	0.2%
	カテゴリ13	リース資産 (下流)	0.0	0.0%	0.0%	—	算定対象外	—	—
	カテゴリ14	フランチャイズ	0.0	0.0%	0.0%	—	算定対象外	—	—
	カテゴリ15	投資	0.0	0.0%	0.0%	—	算定対象外	—	—
合計		Scope1+Scope2 (ロケーシ ョン基準)+Scope3	493,355.9	—	—	85.4%	577,735.4	—	—
合計		Scope1+Scope2 (マーケッ ト基準)+Scope3	493,324.3	—	—	85.8%	574,934.0	—	—

※1 Scope2はGHGプロトコルに則りロケーション基準およびマーケット基準の両方を記載しています。

※2 2024年度実績ではScope3排出量の算定方法の見直しを行ったことにより、排出量に増減が生じています。

太陽光発電設備の導入

千葉工場ではPPA（Power Purchase Agreement）モデルによる太陽光発電設備を導入し、事業所で使用する一部の電力を再生可能エネルギーに置き換えました。年間約260,000kWhを発電し、CO2排出量100トン以上の削減（化石燃料由来の電力との比較）に相当します。

他拠点における再生可能エネルギーの利用についても検討を進めています。



2030年度中期目標：廃棄物量の削減とリサイクル率98%以上の水準維持

廃棄物の処理

工場から発生する廃棄物の大部分を占める「ライムケーキ」は、95%以上をリサイクルしています。その他、廃プラスチック類、紙くず、金属くず等については、適切に処理し法令に基づき行政に報告を行っています。

資源の使用量の削減、再利用

事業活動で使用する原材料、副資材、エネルギー等は、限りある貴重な資源であり、可能な限り使用量の削減や再利用に取り組みます。

工場では不要になったものを再利用する“リサイクル”だけでなく、フレキシブルコンテナバッグ、樹脂パレットなどの資源を有効に循環させて使う“リユース”を推進しています。また、使用したクラフト紙袋はサプライヤーを通じて、段ボール原紙として再生するなどの取り組みを継続しています。



使用済みクラフト紙袋がベルトコンベヤで運ばれ、パルパーに投入され溶解（離解）されます。

2030年度中期目標：水資源使用量低減に向けた調査

水の有効活用

精製糖の製造では大量の水を使用します。当社では、排出時の基準を満たすことはもちろんのこと、水使用量のモニタリングを行い、削減を目指していきます。

その他

その他各拠点における省エネ活動

- 電動型バッテリー式フォークリフトの利用による温室効果ガスの削減
- 大型トレーラー車利用等によるトラック台数の削減、配送の効率化
- 物流における出荷トラック予約システム導入、アイドリング時間減少による温室効果ガスの削減
- 各工場で使用されているモーターのインバーター化
- LED照明への切り替え推進
- 通年で節電対策を実施するとともに、働き方改革の一環として「ノーネクタイ、ノー上着」の実施

気候関連財務情報開示タスクフォース

当社は、気候変動問題を最も注力すべき領域としており、その実践として、気候関連財務情報開示タスクフォース（TCFD）の提言に沿った適切な情報開示を行っています。

- 【シナリオ分析】
- 気候変動（平均気温の変化）に伴う、精製糖事業における想定されるリスクの洗い出し
 - 気候変動リスク軽減への取り組み
 - 気候変動リスク軽減を事業機会とするための取り組み

気候変動イニシアティブへの参画

2019年から気候変動イニシアティブ（Japan Climate Initiative）に参加しています。気候変動イニシアティブは、一般社団法人 CDP Worldwide-Japan、公益財団法人世界自然保護基金（WWFジャパン）、公益財団法人自然エネルギー財団が事務局を担当。日本において企業や自治体、NGOなどの情報発信、情報交換を強化し、脱炭素社会の実現を目指すネットワークです。

当社は、気候変動イニシアティブが参加要件とするアクション（2050年までのGHG実質排出量ゼロへのチャレンジ）に賛同しています。

地域とのつながり・社会貢献活動

地域とのかかわり

当社は、事業所や工場が立地する地域とのかかわりを大切にしています。地域行事への参加・協賛、従業員による工場周辺の清掃活動を定期的に行っているほか、中学生の体験学習の受け入れ等も行っています。また、災害発生時には、地域を支援できるよう、災害備品の確保や災害時支援マニュアルの作成を行っています。さらに、将来世代の育成・支援を目指し、様々な社会貢献活動を継続しています。



サトウキビ収穫体験会

中部工場ではサトウキビを栽培しており、毎年秋に、社員と家族、地域の皆さまと一緒に、背丈を超える高さまで成長したサトウキビを伐採して、その場で搾汁し、できたてのサトウキビジュースを試飲するイベントを実施しています。この取り組みを通じて地域の皆さまに、砂糖が天然の植物由来であり、安全な食品であることを感じていただいています。



こども食堂支援

当社では、2020年から（一社）全国食支援活動協力会を通じて、全国のこども食堂および地域食堂に当社製品を無償で提供し、その活動を支援しています。砂糖の配送では物流部門と連携し、当社の配送網を活用しながら協会の要請に応じたきめ細かな対応を行っています。



コーポレート・ガバナンス

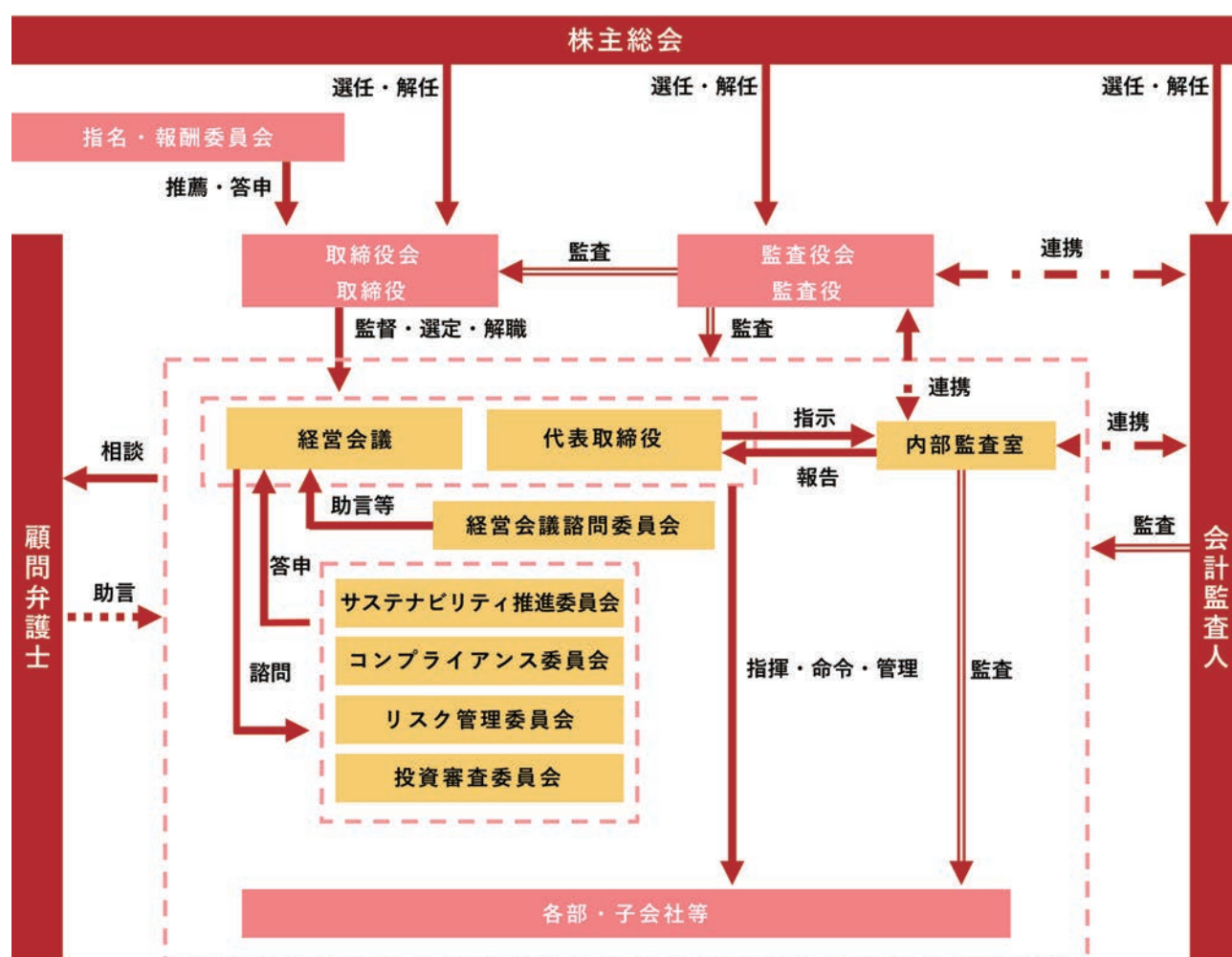
ウェルネオシュガーは、株主をはじめ顧客・従業員・地域社会等のステークホルダーから信頼、支持され続けるためには、中長期的な企業価値の向上に努めるとともに、社会的な責任を果たし、持続的な成長、発展を遂げていくことが重要であると認識し、これを実現するために、常に最良のコーポレート・ガバナンスを追求し、その充実に継続的に取り組むことを基本方針としています。

当社は、持続的な成長および中長期的な企業価値の向上を図るためには、公正で透明性の高い経営を実践するとともに、保有する経営資源を有効に活用し、経営環境の変化に迅速に対応し果敢な意思決定ができる組織体制を構築、維持することが重要であると考え、次に掲げる基本的な考え方に沿って、コーポレート・ガバナンスの充実に取り組んでいます。

- ①株主の権利および平等性を確保します。
- ②ステークホルダーの利益を考慮し、ステークホルダーと適切に協働します。
- ③会社情報を適切に開示し、透明性を確保します。
- ④取締役、監査役、独立役員それぞれの役割および責務を認識し、その実効化を図ります。
- ⑤中長期的な株主の利益と合致する投資方針を有する株主との間で建設的な対話を行います。

現在、取締役・取締役会と監査役・監査役会を中心とした体制を構築しており、取締役会において経営の重要な事項の審議・決定、職務執行状況の監督を行い、監査役会において代表取締役および業務執行取締役の職務の遂行を監査することにより、経営監視機能の充実に努めています。

さらに、取締役9名のうち5名を社外取締役とし、またそのうち3名を独立社外取締役とすることにより、経営に多様な視点を取り入れるとともに、経営の透明性、公正性を向上させています。また、監査役4名のうち2名を公認会計士や弁護士などの専門的な知見を有する社外監査役にすることにより、独立した立場からの監査を確保し、監査機能の強化を図っています。



コンプライアンス

ウェルネオシュガーでは、取締役等および使用人の職務の遂行が法令および定款に適合することを確保するための体制の基礎として、「行動規範・行動指針」および「コンプライアンス規程」を定め、コンプライアンス委員会を設置し、コンプライアンス体制の確立を図っています。また、内部監査により、コンプライアンスの状況の監査も行っています。

リスクマネジメント

ウェルネオシュガーでは、リスク管理体制の基礎となる「リスク管理規程」を定め、会社横断的なリスク管理のためのリスク管理委員会を設置し、個々のリスクについての管理担当部を定め、同規程に則ったリスク管理体制を確立しています。

人権方針

ウェルネオシュガーグループは、事業活動を通じて、持続可能な社会の発展に貢献することを行動規範の中核におき、サステナビリティ経営に取り組んでいます。私たちは、企業に求められる社会的責任として人権を尊重し、あらゆる人々が共生、協働できる社会および差別のない社会の創出に寄与し、社会とともに持続的に成長していくことを目指します。

ウェルネオシュガーグループは、「国際人権章典」（国連）および「労働における基本的原則および権利に関する宣言」（ILO宣言）を支持し、国連の定める「ビジネスと人権に関する指導原則」に則って活動します。

人権方針：https://www.wellneo-sugar.co.jp/sustainability/human_rights/

人権の尊重

ウェルネオシュガーグループは、人権に関する法令と社会規範を遵守します。労働における基本的原則および権利を尊重し、サプライチェーンにおける児童労働や強制労働を排除し、事業活動における人権侵害を行わず加担することもないよう、社内啓発に努めています。また、すべての従業員がその人としての尊厳が守られ、平等な機会を与えられる職場環境を確保するために、以下のような取り組みを実施しています。

①従業員研修の実施

当社では年1回、人権に関する研修を実施し、従業員が人権の重要性や自社の方針について理解を深める機会を設けています。研修は全従業員を対象に行い、従業員の人権意識の向上につながる取り組みを推進しています。

②ハラスメント対策

職場におけるハラスメント防止規程、ハラスメント対応の基本方針および内部通報取扱規程の制定、第三者機関を窓口とする外部相談窓口を設置し、従業員が安心して仕事に従事できる職場環境づくりに取り組んでいます。また、社内報や社内掲示板等で人権リスクに関する情報を共有し、全社的な人権意識の向上を図っています。さらには、社内の人権に関する取り組みを定期的に評価し、継続的改善に努めています。

安全衛生

ウェルネオシュガーグループでは、安全で衛生的な職場環境の実現に向け、日々の整理整頓や清掃の徹底、安全衛生に関する研修の実施など、基本的な取り組みを継続しています。

さらに、衛生委員会による啓発活動や環境改善、安全衛生規則の整備を通じて災害予防と衛生管理の強化を進めています。工場ではリスクアセスメントを実施し、職場に潜む危険要因や対策の状況を把握することで、災害につながるリスクを減らし、労働災害のない職場づくりを目指しています。

また、年2回の安全管理情報連絡会では、労働災害やヒヤリハット事例を共有し、職場全体の安全意識を高める取り組みを続けています。

【環 境】

指 標	2024年度	備 考
エネルギー		
CO2排出量 (Scope2: マーケット基準)	53,554 t-CO2	全事業所
本社部門 (Scope1、2)	352 t-CO2	本社・千葉地区・営業所
中部工場 (Scope1、2)	37,085 t-CO2	
関西工場 (Scope1、2)	16,117 t-CO2	
オフィスエネルギー使用量	1,387 GJ	
ガソリン使用量	24 KI	
水資源		
使用量 (計)	837 千m ³	中部工場・関西工場
上水	56 千m ³	中部工場・関西工場
工業用水	781 千m ³	中部工場・関西工場
排出量 (放流先: 海、下水)	645 千m ³	中部工場・関西工場
排出量		
廃棄物量	5,883 t	中部工場・関西工場
埋立・焼却量	30 t	中部工場・関西工場
廃棄物リサイクル率	98.6 %	中部工場・関西工場
オフィス廃棄物量	6 t	本社・千葉地区
環境関連の罰金・違約金の総額	0 円	中部工場・関西工場
その他		
ハイブリッド車両比率	68.2 %	全事業所

※ 上記CO2排出量は、自社排出 (サプライチェーン排出量、Scope1、2) を集計したもので、その他の間接排出 (Scope3) は含みません。

【役 員】

指 標	2022年度	2023年度	2024年度
取締役会			
取締役数	9 人	9 人	9 人
社内	4 人	4 人	4 人
男性	4 人	4 人	4 人
女性	0 人	0 人	0 人
社外	5 人	5 人	5 人
男性	4 人	4 人	4 人
女性	1 人	1 人	1 人
取締役会開催回数	17 回	16 回	16 回

指 標	2022年度	2023年度	2024年度
監査役			
監査役数	4 人	4 人	4 人
男性	3 人	3 人	3 人
女性	1 人	1 人	1 人

【従業員】

指 標	2024年度	備 考
雇用		
従業員数	377 人	
（うち臨時従業員数）	0 人	
平均年齢	43.3 歳	
平均勤続年数	18.4 年	
平均年間給与	7,717 千円	
新卒採用人数（合計）	11 人	
新卒採用人数（男性）	3 人	
新卒採用人数（女性）	8 人	
新卒採用者定着率	100.0 %	入社3年後定着率
キャリア採用人数（合計）	8 人	
キャリア採用人数（男性）	5 人	
キャリア採用人数（女性）	3 人	
全体採用人数に対するキャリア採用人数の割合	42.1 %	※改正労働施策総合推進法対応
採用におけるコスト	19,607 千円	
離職率	0.9 %	定年退職、嘱託期間満了解雇除く
多様性		
社員における女性の割合	30.4 %	
管理職社員における女性の割合	6.8 %	
定年再雇用率	100.0 %	
障がい者雇用率	2.13 %	
職場環境		
一般社員の実労働時間（年間）	1,881.2 時間	
一般社員の所定外時間労働（月平均）	18.8 時間	
有給休暇取得率	58.4 %	
育児休業取得者数（合計）	15 人	
育児休業取得者数（男性）	11 人	
育児休業取得者数（女性）	4 人	
育児短時間勤務者数	7 人	
教育・研修		
教育・研修費	10,933 千円	
教育・研修費（一人当たり）	29 千円	
労働安全衛生		
労働災害発生件数	0 件	

教育研修制度

社内外の教育研修を通じて従業員の能力開発を行っています。また従業員が講師となる社内勉強会「ネオスタ」を開催しています。

社内研修	新入社員研修、フォローアップ研修、階層別研修、人権啓発研修
外部研修	スキル研修（会計・財務、生産管理・品質管理、営業・マーケティング他）
能力開発	自己啓発支援制度（通信教育・語学学校通学・資格取得試験・書籍購入等の費用援助／オンライン英会話受講料全額補助）他

開催回	ネオスタのテーマ
第1回	当社の機能性糖質の研究開発および販促活動について
第2回	きびオリゴの製造方法
第3回	砂糖の製造方法～きび砂糖～
第4回	当社のサステナビリティ推進の現状

福利厚生

ウェルネオシュガーグループでは、様々な角度から従業員の生活を支援できるよう、福利厚生の充実に取り組んでいます。

社会保険完備（健康保険、厚生年金保険、雇用保険、労災保険）／独身者用・交替勤務者用・転勤者用借上社宅制度／住宅融資制度、社員持株制度、財形貯蓄制度、確定給付・確定拠出企業年金／会員制福利厚生倶楽部、グループ会社のスポーツクラブ利用／クラブ活動、社内イベントの開催／福利厚生施設・保険組合保養所の利用、他

会 社 概 要

会社概要 2025年12月1日現在

商 号	ウェルネオシュガー株式会社 WELLNEO SUGAR Co., Ltd.
本店所在地	〒103-8536 東京都中央区日本橋小網町14-1 住生日本橋小網町ビル
代 表 者	代表取締役会長 仲野 真司／代表取締役社長 山本 貢司
設 立	2011年10月3日(2023年1月1日 日新製糖株式会社より商号変更)
事 業 内 容	砂糖・機能性素材の製造販売、フィットネスクラブの運営等
資 本 金	70億円

グループ会社一覧（連結子会社）

社 名	現住所	事業内容
新 豊 食 品 株 式 会 社	〒261-0002 千葉県千葉市美浜区新港52	砂糖等の加工および包装
日 新 サ ー ビ ス 株 式 会 社	〒103-0016 東京都中央区日本橋小網町14-1 住生日本橋小網町ビル	合成樹脂等の販売
シー・アンド・エス・サービス株式会社	〒447-0834 愛知県碧南市玉津浦町3番地 (当社中部工場構内)	中部工場内の設備点検・管理、運送代行 業務の受託
東 洋 精 糖 株 式 会 社	〒103-0006 東京都中央区日本橋富沢町12番20号 日本橋T&Dビル4階	砂糖および機能素材の製造販売
ト ー ハ ン 株 式 会 社	〒103-0006 東京都中央区日本橋富沢町12番20号 日本橋T&Dビル4階	砂糖および機能素材の販売
ツキオカフィルム製菓株式会社	〒509-0109 岐阜県各務原市テクノプラザ2-11	箔押事業・食用純金箔事業およびフィルム 事業
株 式 会 社 日 新 ウ ェ ル ネ ス	〒103-0016 東京都中央区日本橋小網町14-1 住生日本橋小網町ビル	フィットネスクラブの運営
ニ ュ ー ポ ー ト 産 業 株 式 会 社	〒261-0002 千葉県千葉市美浜区新港50	冷蔵倉庫、港湾運送業

ウェルネオシュガーの事業拠点



サステナビリティ報告書

本サステナビリティ報告書は、ステークホルダーの皆さまにウェルネオシュガーグループのサステナビリティ経営の取り組みをご報告するとともに、自らの活動を記録し、今後の施策に活かすことを目的としています。主に「5つのマテリアリティ」のそれぞれについての実績報告と今後の目標を紹介しており、本報告書がウェルネオシュガーグループの活動へのご理解を深めていただく一助となれば幸いです。

今後とも、サステナビリティ経営に対するステークホルダーの皆さまのご理解とご支援を賜りつつ、対話と協働の促進に取り組み、ウェルネオシュガーグループ一丸となってサステナビリティ経営を推進することにより、社会課題を解決しながら、社会的価値と経済的価値を両立する事業を展開することで、企業価値の向上を目指してまいります。

【編集方針】

ウェルネオシュガー株式会社

対象期間：2024年4月～2025年3月（一部直近の活動を含みます）

ウェルネオシュガー株式会社



＜本報告書に関するお問い合わせ先＞

〒103-8536 東京都中央区日本橋小網町14-1

ウェルネオシュガー株式会社

TEL 03-3668-1120 (経営企画部)

表紙：松成 真理子（イラストレーター・絵本作家）